

## 自動ファイル転送ツール MoveItEx Ver.1.0 操作マニュアル

ダイヤモンド(株)

テクニカルサービスセンター

## ●概要

自動ファイル転送ツール”MoveItEx”は、指定した入力フォルダを監視し、その中にファイルが来ると別の転送先フォルダに移動させるツールです。

用途としては、

\*OS9 から NAS サーバー上に送られたデータを、SDP-RIP の Spool フォルダへ送る、

\*TrueFlow で作成した TIFF ファイルを、EFI プルーファァーへ送る、

(TrueFlow から直接 EFI のホットフォルダに書き出すと、エラーを生じる事例があるため)

\*スキャナが作成した多ページ PDF ファイルを、SDP-RIP の Spool フォルダへ送る、

(スキャナから直接 RIP に書き出すと、原稿の読み取り作業中に RIP 処理が始まる可能性があるため)

\*SDP-RIP で作成した TIFF や RasterPDF を、他のシステムに送る、

(送り先のシステムとの接続が、頻繁にとぎれるような場合に有用)

といった使い方を想定します。

同時に 25 個までの入力フォルダを監視することができます。

## ●インストール方法

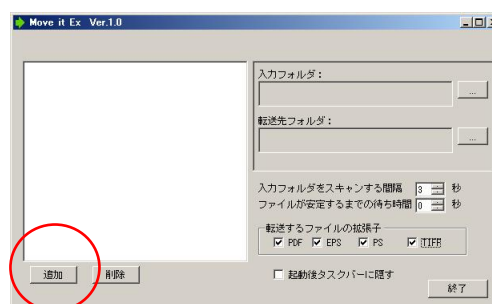
MoveItEx.exe ファイルを、Windows 機の任意のフォルダにコピーしてください。

なお.NET2.0 以降の環境が必須です。

## ●設定手順

MoveItEx.exe を起動すると、右図のようなダイアログが表示されます。

左下の[追加]ボタンをクリックしてください。



入力フォルダダイアログが開きます。

ファイルの転送元になる入力フォルダを選択してください。

右図は、NAS サーバー上のフォルダを選択した例です。



次に転送先フォルダダイアログが開きます。

ファイルの送り先のフォルダを選択してください。

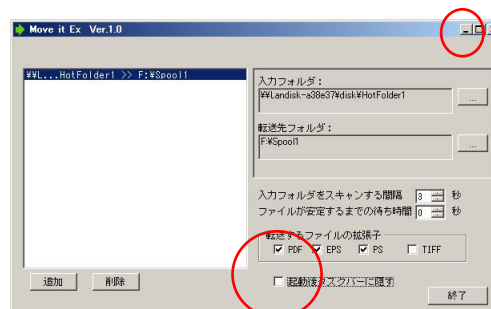
右図は、RIP の Spool フォルダを選択した例です。



元のダイアログに戻ります。

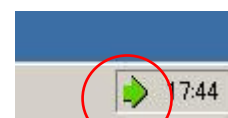
続けて [追加] ボタンをクリックして同じ操作を繰り返し、必要な数だけ入力フォルダを作成することができます (最大 25 個)

[転送するファイルの識別子] 欄で、転送する必要のないファイル形式のチェックを外してください。



[起動後タスクバーに隠す] にチェックを入れて、左上の最小化[\_]ボタンをクリックします。

MoveItEx は画面右下のタスクトレイ上にだけ表示され、バックグラウンドで動作します。トレイ上のアイコンをクリックすると、またダイアログが開きます。



スタートメニューの[全てのプログラム] > [スタートアップ] に、MoveItEx.exe のショートカットを作成してください。これで PC の起動ごとにバックグラウンドで自動転送するようになります。

## ●設定項目

### ・[入力フォルダをスキャンする間隔]

通常はデフォルトの3秒でかまいません。ネットワークの状態やアプリケーションによっては変更した方がよい場合があるかもしれないので、1秒単位で修正可能にしています。

### ・[ファイルが安定するまでの待ち時間]

通常、MoveItExはアプリケーションから書き出し中のファイルにアクセスできないので、デフォルトの0でかまいません。ただしシステムによっては、ファイル生成が完了する前にアクセスできてしまうことがあるので(例:スキャナが複数の原稿を読み込んで多ページPDFを生成する場合)、必要に応じて10～20秒程度に設定します。

## ●その他

・指定した拡張子のついたファイルだけが転送対象となります。Macからファイルを送る場合、必ず拡張子を追加するようにしてください。

・ネットワーク障害等で入力フォルダや転送先フォルダのどれかにアクセスできない状態になると、タスクトレイ上のアイコンが赤色表示になります。

・入力フォルダへの書き込み権限がない場合、転送作業は行われません。別PCやMac上のフォルダを入力フォルダに設定する場合は、共有設定に注意してください。

・入力フォルダが重複して設定されている場合、下側の転送設定は無効になります。

・転送先に同じ名前のファイルがある場合、転送作業は行われません。

以上